

三 鶴 西

元禄文学に

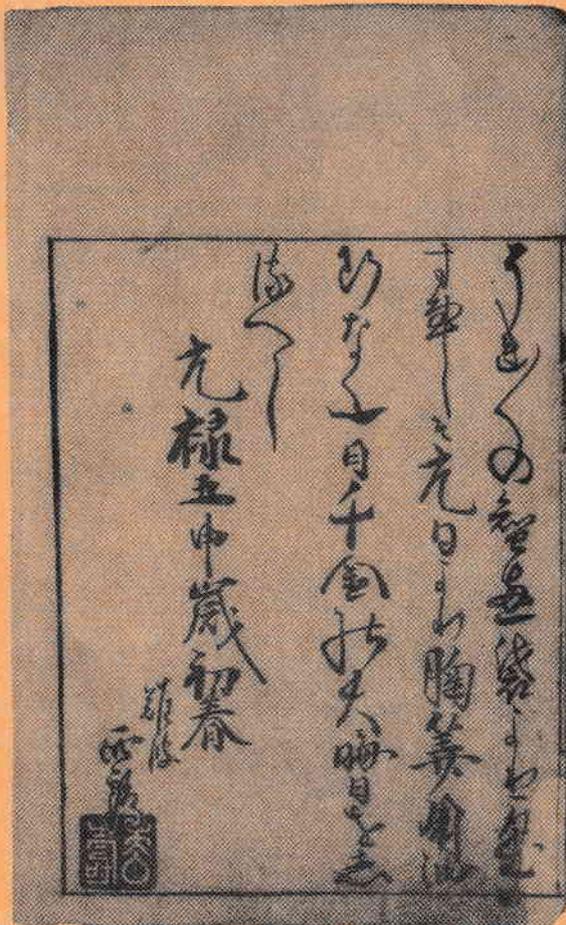


房陽菱川師宣筆

師宣筆「見返り美人図」

東京国立博物館蔵

西鶴は文学史上での浮世草子作家を確立し、その頃、美術史上では菱川師宣が浮世絵の創始者となった。



知恵袋より取出す事ぞ元日より胸算用油断なく一日千金の大晦日をするべし
元禄五申歳(さるものと) 難波 西鶴(松寿)

代えては、格好がつかない。手広く商売し、人の出入りも多し家では世間体も張らねばならぬ。世間に不景気の声が満ちているのに、伊勢海老なしの蓬萊は思いもよらぬと金をいとわずに買うのが常である。

「ある大阪の商家で―
「自分一代に高いものを買ったことがない。薪・綿・米も安い時期に現金で買う。今に気がかりは父親の棺桶を高く買ったことだけだ。伊勢海老がないと正月が来ぬわけもあるまい。ないもの食